

目次 TABLE of CONTENTS

■ 本書の構成と使い方 / 問題の特徴 / 学習のポイント	i
■ 練習問題		
練習問題 1	2
練習問題 2	23
練習問題 3	40

本書の構成と使い方

この冊子は、次の3つの問題で構成されています。また、全設問の全文訳と解答・解説が別に用意されています。

▶ 練習問題 1

主に 2021 年度の共通テストを土台に作成した練習用の問題（1 回分）です。標準的レベルです。

▶ 練習問題 2

主に 2017 年度のプレテスト（試行調査）を土台に作成した練習用の問題（1 回分）です。やや複雑でハイレベルです。

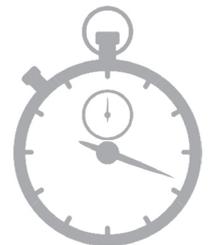
▶ 練習問題 3

主に 2018 年度のプレテスト（試行調査）を土台に作成した練習用の問題（1 回分）です。やや複雑でハイレベルです。

問題は大設問（一つの素材を用いて作成された連続する問題群）ごとに分かれています。模擬試験的に使うことも可能です。

▷ 時間設定について

各大設問の最初のページの上部に「目標時間」が表示されています。練習の目安にしてください。練習時にミスをして、復習して「直す」ことはとても重要な行為です。ただし、試験本番における独特の緊張が無い状態では、ミスを犯さずにすんでしまうこともしばしばです。そのため「制限時間」を設定し、ある種の緊張を感じながら問題を解くことには意味があります。ただし、時間制限を設けたために起こる問題もあります。次の項目以下をよく読んでください。



▷ 時間設定の注意点

共通テストの学習に慣れていない状態では、この時間に縛られすぎないように注意してください。選択形式問題の場合、時間が足りなければ「運頼みでとにかく解答する」のが試験当日の鉄則です。しかし、同じ方法を問題練習の時点で行うのはすすめられません。それで答え合わせをしても得るものが無いからです。

▷ 制限時間と復習・チェック時のポイント

「練習」の目的は、全力を傾けて解き、その上でどこに記憶の漏れや、誤解、判断ミスがあったのかをチェックし、次に「正答」できるようにすることです。この後で説明しますが、共通テストでは、知識の大小が有用になる問題は多くなく、読んで考え、判断することを重視します。誤答の多くは、英語の文法・語句などの知識不足だけでなく、読み方が雑だったり、じっくり推理せずに雑に解答してしまったことに起因します。限られた時間内に「しっかり読んで、よく考えることができたかどうか」がしばしば課題になります。時間にこだわるより、読解や推理判断が正しくできたかどうかにかかわって学習してください。

★なお、目標時間を合計すると、実際の試験時間より長くなっていることがあります。これは上記の事情によります。

共通テスト・問題の特徴

以下の内容は、2021年度の共通テストと2回実施されたプレテスト（試行調査）の問題を分析した結果によります。

■英語：リーディング問題の特徴

センター試験と比較すると、次の4点が大きな特徴です。

- ▶ 1 読解力重視
- ▶ 2 複線型読解の多用
- ▶ 3 推理推論重視
- ▶ 4 意見と事実の区別の重視

reading



▶ 1 読解力重視

英語の語句知識や文法知識以上に読解力を重視します。わかりやすい事実は、センター試験では最初にある「発音・文法問題」が無くなり、全て読解問題となったことです。

共通テストは、文章内容も語彙レベルもセンター試験に比べて平易なものでした。その代わりと言ってよいが微妙ですが、読解力に大きな負荷がかかるように設計されています。

端的に言う「すみずみまで気を抜かずにちゃんと読め」というメッセージがこめられた問題です。

全体の通読や要約を求めるような問題が多く見られます。局所的な記述内容より、文章の流れをつかむことが重視されています。

また、英文以外の多種多様な資料の読み取りが重要な意味を持っています。「読解力」といってもそれは、単に英文を訳す力を意味するのではなく、データや地図など、様々な情報を含めた「情報を読み取ってその意味を正しく解釈する力」と理解すべきものなのです。

▶ 2 複線型読解の多用

耳慣れない言葉でしょう。「複線型読解」とは、本書独自のネーミングです。読解力重視の中身はというと、多くの設問が「複線型」になっていることです。これまでの英文読解はほぼ「単線型」でした。そもそも単線・複線とは、鉄道用語です。線路が1本だけの路線を単線、2本のを複線と呼びます。

単線型読解は、一つの文章をはじめから終わりまで一直線に読みます。

複線型読解では複数の文章や資料（イラストや図表、地図などの文章以外の非連続型テキストもしばしば加わります）を並行して読むことが求められます。だから複線型です。

文字数が同じでも、単線型に比べ、視線や意識を移動させる必要があるため、時間がかかったり何度も読み返さないと混乱したりします。共通テストで用いられる英文は内容、語彙ともに比較的平易なのですが、複線化によって難易度が上がっています。

下の表は、「複線型読解」を求める問題の割合を、センター試験と2回のプレテスト（試行調査）、共通テストと比較したものです（設問数の割合）。

不慣れな受験生が多いためか、差がつくポイントになっています。

複線型読解の比率	英語読解	数学IA	数学IIB	国語	世界史B	日本史B	地理B
18 センター・本	19%	5%	0%	0%	6%	19%	74%
17 プレテスト	65%	48%	24%	47%	56%	74%	87%
18 プレテスト	62%	33%	21%	34%	56%	71%	81%
21 共通テスト・本	59%	17%	6%	32%	38%	44%	100%

共通テスト・問題の特徴

▶ 3 推理・推論重視

推理とは、そこにある情報をもとに、そこにはないものを想像することです。推論とは、すでに確認できていることから、そのまま確実に言えることを導くことです。

似ているのですが、微妙に異なります。

推理は、「東京ではこれまで、夏至の日は春分の日よりすべて最高気温が高かった。したがって、来年の夏至もそうなるだろう」のようなものです。絶対確実とは言えませんが、意味のある予測です。

推論は、「夏至は1年で最も昼が長い日のことである。したがって、春分の日より夜が短い」です。こちらは確実です。もし、そうでなかったら、その日は「夏至」ではありません。

もちろん、共通点もあります。それは「そこにあることから、そこに無いことを導く」ことです。

設問を解く際に、選択肢の正誤を判断するのですが、判断の根拠になる箇所が、文章中に明示されているとは限りません。

たとえば、ある映画館が「日曜と祝日にだけ深夜上映を行う」としていたら、「春分の日を夜遅くに映画を観る」とはできますが「夏至の日の夜遅くに観る」のは難しいことでしょう（春分は祝日ですが夏至は違います。ただし、日曜日の可能性はあります）。日本語で書けば自然な推理・推論ですが、英語の文章を読んで、慣れないテストの状況下でスムーズにできるかどうかとなると、個人差があるでしょう。

このタイプの設問も、共通テストでは差がつくポイントです。

まずは、意識して慣れることです。



▶ 4 意見と事実（主観と客観）の区別重視

英語の表現（ライティング、スピーキング）では、意見と事実の区別がとても重要です。

「私の意見はかくかくしかじかである。この意見は、次の事実に基づいてる。第一に～。以上の事実について記された参考文献を列記する。」こんな調子できちんと書かねばなりません。日本語でも学術的な文章では同じような厳密さが求められます。ただし、日本語はこのような形式的な厳格さを避ける傾向があります。そのため、主観的意見と客観的事実をいちいち区別する習慣が定着しているとは言い難いのが事実です。

センター試験にはほとんど無く、プレテストと初年度の共通テストを通じて大いに増加したのが、意見と事実の区別や、ある意見を補強（支持）する記述やデータを選ぶ設問です。このことは、ライティング、スピーキングも含めて「論理的な英語力」を重視するという新しい英語「学力観」を示していると思えるべきです。

いわゆる4技能のうちの「ライティング（書く）」について、「単純な和文英訳ではなく、事実をもとに意見を述べることができるようになることが目標」という意味の説明がなされています。

英語そのものの知識・技能に加え、英語を思考・判断・表現の道具として使いこなすことが求められているのです。

共通テスト・学習のポイント

以上の特徴にしたがい、学習のポイントを整理します。次の3点です。

- ▶ 1 すみずみまで気を抜かずにていねいに読む
- ▶ 2 情報の関係を「書いて」可視化する
- ▶ 3 復習は「読解」「判断」「知識」の3観点で

くわしく説明します。

▶ 1 すみずみまで気を抜かずにていねいに読む

あまりにあたり前のことですが、あえて記します。もちろん、設問を解くために英文を読むのですが、選択肢の正誤を表面的な語句の意味でとらえるだけでは正解は困難です。文章全体の意味の流れをつかみながら「そこに書かれたことを用いて書かれていないことを推理・推論する」つもりで読まなくてはなりません。

すでに書いたように、主観と客観（意見と事実）や、賛成と反対などにも注目すべきです。

また、複線型読解は時間がかかりがちです。速さとていねいさの両立も忘れてはいけません。

▶ 2 情報の関係を「書いて」可視化する

複線型読解は、あちこちに分散している情報を整理統合して読むことが必要です。複数の文章・資料の間の共通点や相違点を目で見えるようにしながら進めないと、少し先に進んだらもうわからなくなってしまい、同じところを何回も見直すことになってしまいます。

ポイントは「情報の可視化」（見える化）です。

方法はシンプルです。筆記用具を使い、メモを書き込み、目印をつけます。関係のある情報どうしは、線で結びつけてやります。

このような「書いて見て考える」習慣がたいへん有効です。

▶ 3 復習は「読解・判断・知識」の3観点で

問題を解いたら答え合わせ……早く正解を知りたいことですが、注意してください。正解を知っても、それだけでは役に立たないことがあります。

まず「なぜ誤ったか」を考えてください。そして、例えば次の3種に分類します。

- 1 **読解** ▷ よく読んでいなかった・雑だった
- 2 **判断** ▷ 情報の組み合わせ方や判断を誤った
- 3 **知識** ▷ 語彙や文法上の知識が不足して誤読した

症状によって対策は異なります。読解重視の共通テスト対策では、特に1と2に注意が必要です。「どう読むか」「どう判断するか」を解説を熟読して考えることです。

大切なのは「自分はその時どう考えたのだろうか……もしかしたら、こんな思い違いをしたのではないだろうか!？」といった、自分自身に対する想像力かもしれません。

